

当透析患者のフットケアに対する意識調査

佐々木亜希子、継田早苗、保坂るり子、近江 薫
佐川寿子、宮形 滋^{*}、原田 忠^{*}、木暮輝明^{*}
中通総合病院 血液浄化療法部、同 泌尿器科^{*}

Attitude survey to the this dialysis patient's foot caring

Akiko Sasaki, Sanae Tsugita, Ruriko Hosaka, Kaoru Omi
Hisako Sagawa, Shigeru Miyagata ^{*}, Tadashi Harada ^{*}, Teruaki Kigure ^{*}
Nakadori General Hospital

<緒言>

当院では平成12年よりフットケアに取り組んでいる。今までの取り組みが患者のセルフケアへの意識付けとなっているか評価するため、外来維持透析患者にアンケート調査を行ったので報告する。

これまでのフットケアの取り組み

- ①フットチェック手順、基準の作成
- ②外傷等の継続処置と観察
- ③フットカルテを用いた定期観察と指導
- ④患者待合室へのポスター掲示
- ⑤患者会主催の講話会での呼びかけ
- ⑥スタッフカンファレンスの開催
- ⑦透析導入期のパンフレット指導

<方法・対象>

外来維持透析患者94名を対象に記述式記名アンケート調査を行った。当院のフットケア基準に従い、週1回に観察する患者を1群・月1回を2群・その他を3群に分けて集計。

<回収率>

92.6% (回答者87名)

<結果>

- ・全ての群で自己観察している患者が多くいた。中でも2群の患者が特によく観察していた。
- ・1群の患者では15%の患者が「必要ない」「見ない」と答えた。その理由として、足が見えに

- くいから見ないと回答した患者が数名いた（図1）。
- ・全ての群で半数以上の患者が足に何らかの異常を感じていた（図2）。
 - ・受診している患者の割合は全体の5割程度であった。2群、3群の患者では市販薬の使用や自己処理をしている患者が多くいた（図3）。
 - ・1群、2群の患者は足の傷について気をつけていた。しかし、3群の患者はそのうち治る、特に気にしないと回答する人が多くいた（図4）。
 - ・ほとんどの患者が靴下やスリッパなどで足を保護していた（図5）。
 - ・当院のフットケアの取り組みに対して半数以上の患者がよい取り組みだと回答していた（図6）。

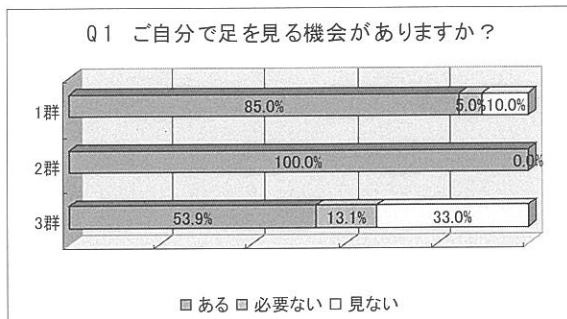


図 1

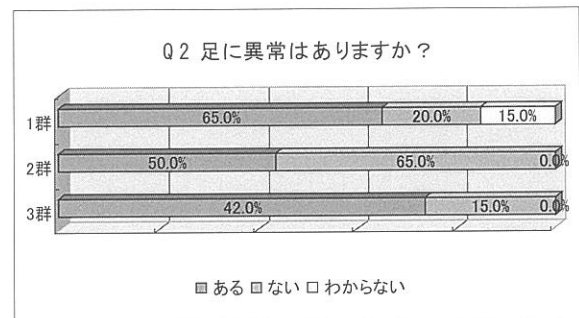


図 2

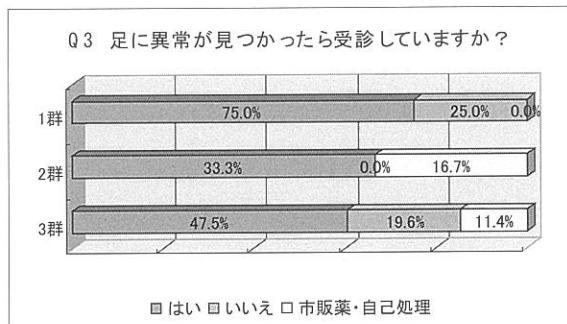


図 3

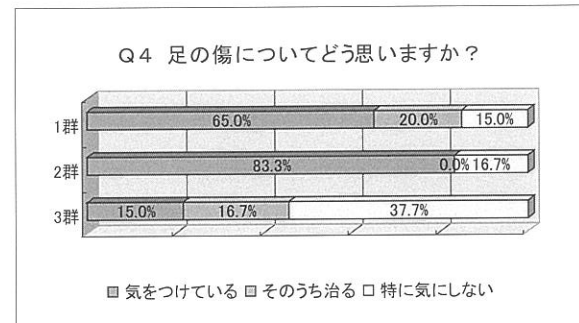


図 4

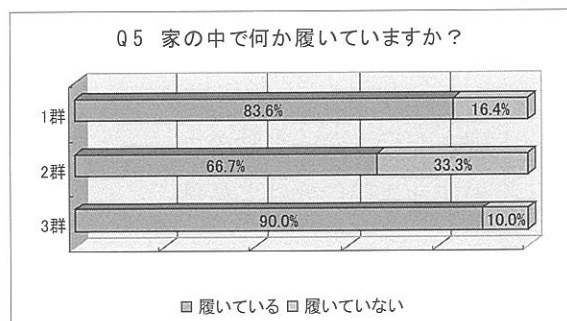


図 5

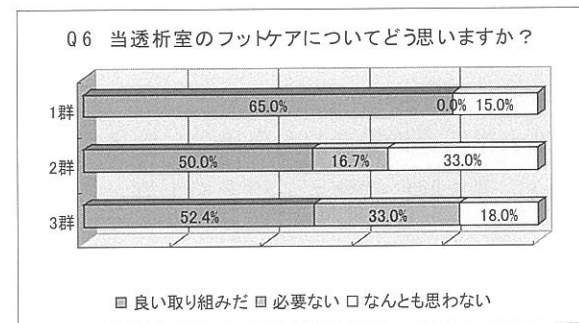


図 6

<考察>

- ・1群では視力低下している患者が多いため、足を見ないと回答した割合が多いと考えられた。

-
- ・全体の79%の患者が足を観察する習慣がついている。これまでのフットケアの取り組みが足への関心を高めることにつながったと考える。
 - ・定期的な観察を行っているが、足病変の発生、予防に関する知識は全体的に高いとはいえなかった。よって、正しい知識を指導していく必要がある。
 - ・フットケアに対する関心を高めるため、現在のフットケアに対する基準の見直し、指導方法の統一をしていく必要がある。

〈結語〉

アンケート調査によりフットケアを継続することは、足病変の予防に必要であるとわかった。しかし、予想していたよりフットケアへの関心が高いとは言えなかった。

現在フットケアプロジェクトチームを立ち上げ、基準の見直し・アセスメントシートの作成を行っている。それを元に患者個々に合わせた具体的な指導をしながら意識を高めていきたいと考える。